

この頃、「やめる」ことについて真剣に考えている。日常的に行っていることを「やめる」ことは困難を伴う。今日は「やめる」ことについて相反する二つの話をするので、それを参考に君の日常をふりかえってほしい。

コンコルドという旅客機を知っているだろうか。1969年就航。イギリスとフランスが国威をかけて開発した夢の超音速旅客機。普通の旅客機の2倍の高度をマッハ2で飛んだ。普通はロンドン、ニューヨーク間は飛行機で5時間半から6時間くらいかかるが、コンコルドは3時間で飛んだ。

離着陸時には機首が折れ曲がる独特の特長をもつ機体は未来を感じさせ、今も人気があるが、製造コストがかかりすぎること、燃料費の高騰、長い滑走路を要したことなどで当初世界中からコンコルドは受注があったものの、その後キャンセルが相次ぎ16機が製造されたにすぎなかった。

2000年には墜落事故が起き、2003年にすべてのコンコルドが退役した。コンコルドは商業的な失敗だった。もっとはやくやめるべきだったのだ。

金銭的、精神的、時間的な投資を続けることが損失につながるとわかっているにも関わらず、それまでの投資を惜しみ、さらなる投資がやめられない状態を、経済学、心理学、動物行動学等の分野で「コンコルドのあやまち」という。

毎日時間と労力をかけて取り組んでいるそのことは、投資に見合った見返りをみなさんにあたえてくれているだろうか。結果が出ていないのに、これまで続けてきたからという理由だけでやめられないことはないか。

皆さんは、「コンコルドのあやまち」をおかしていないか。

もうひとつお話ししたいことはごく個人的なこと。見返りに満足できなくても、継続したからよかったこともある。実は私は英語教師で、いずれは流ちょうに英語を使えるようになりたいと思って、ずっと英語を勉強してきた。

けれど、私はずっと自分の英語がいやだった。自分の英語の不完全さを意識していた。いまでもそう思う。自分だけがよくわかっている自分の英語の程度。いろいろ検定をうけたりしたが、けして満足できなかった。

だが、このごろ二つのことに気が付いた。一つは、外国語を学ぶかぎり、つまりはこういう自分の不完全さといつも向き合わねばならないということ。一昨日の台湾研修発表会では2年生が口々に「英語をもっと勉強しなければ」と言っていたが、それでいい。外国語を学ぶことの実態は、自分の英語の不完全さを常に意識していることだ。

長く日本に住んでいる外国人が、母国語なまりの日本語を使って話しているのを聞くと、チャーミングだとは思わないか。母国語のように英語を身に付けることができるのは、生育環境や学歴が恵まれたとても幸運なごく一部の人だけだ。

もう一つこのごろ気が付いたことは、私は決して自分の英語に満足できないが、私は英語の勉強を続けたことで、それなりに英語が使えるようになり、不完全であってもそれから恩恵を得ているということだ。

私は英語で書かれたものが読める。外国から学校に訪れた人が英語を使えれば、意思の疎通ができる。上手な英語とはとても言えないが、あまり間違いを恐れず、ざっくばらんに話せば、相手とも打ち解け、楽しい。

継続は力というが、こういうものを手に入れられるなら、基礎的な練習を若いうちからさぼらずに継続しておけばよかったと反省もする。

私は今日、何か結論めいたことを言いたいのではない。毎日日常的に繰り返していることは検証されない。だがこの際、私が述べた二つのことをヒントに日常を見直し、新しい年度を迎えてほしい。